

浜町福祉センターってどんなところ？



皆さんは、最近、新聞やテレビなどで「ノーマライゼーション」ということばを聞いたことや、見たことはありませんか。

「ノーマライゼーション」とは、障害をもつ人も健常者も、高齢者も子供も、すべての人が、差別されることなく同じように「ともに生きる社会が当たり前」という考え方なんです。

この考えに沿って蒲郡市は、障害をもつ人たちが、仕事や生活の面で、健常者の人たちと同様に社会の一員として、積極的に参加できるように、障害をもつ人たちの自立の拠点として浜町に福祉センターを作りました。

そこで、今回は、わたくしハートムが、皆さんに浜町福祉センターが、どのような所かを知ってもらうため、Q & Aをご紹介しますね。

福祉課 ☎66♦1106

社会をめざして



▲自動車部品のバリ取り作業

Q どういう目的で、いつできたの？

障害がある人たちが、その家族は、自分たちの働く場所、あるいは、自分たちの力で暮らせるようになるための訓練場所として福祉センターが必要でした。

そこで、市は平成16年1月に雇用能力開発機構から浜町にあった旧港湾労働者福祉センターを購入し、6月には精神障害者地域家族会(精神障害者)、手をつなぐ育成会(知的障害者)、肢体不自由児者父母の会(身体障害児・者)の3団体に貸しました。

Q 福祉センター内では何をしているの？

今、センターの2階には、精神障害者地域家族会が中心となつて、自宅で生活している精神障害者が、地域の中で生活できる力を養うため、小規模保護作業所「ステップしおさい」を開いています。そこでは、石鹸づくりや車部品のバリ取りなどの内職的作業を中心に、毎日12〜13人の人たちが働いています。

また、1階は手をつなぐ育成会と肢体不自由児者父母の会の2団体が管理していて、今後の使い方を検討しています。

Q どういう人たちが利用できるの？

今はステップしおさいの仲間たちが、軽作業するために来ていますが、今後はいろいろな人たちが気軽に利用できるような施設を考えています。

Q 運営はいつなっているの？

各団体がそれぞれ運営しています。例えば「ステップしおさい」の場合、精神障害者地域家族会が設置し、県や市などからの補助金と寄付金、仲間たちの作業収益金で賄っています。

また、作業所の円滑な運営をするため、保健所や市、顧問医などで委員会を作り運営内容の話し合いをしています。

Q バリアフリーは大丈夫？

旧港湾労働者福祉センターの建物をそのまま使っているので、古く、スロープや障害者用のトイレ、手すりはありません。そのため、障害がある人にとってはとても使いにくい施設です。けれど